

課題シート

当事者が抱えている
不安や不満の一覧表

障害児政策部分

当事者・保護者の不安や不満	課題領域	市民からの要望提案・改善案		
1 障害児と判ってから、就学するまで行政からなしのつづてだった	就学前・乳幼児の親への対応 (親が受容していくための援助)	受容のための援助		
2 生まれてすぐの時が一番不安だった(先が見えなかったから)				
3 小学校でつくし会の先輩に出会い励まされた。もっと早く会の存在を教えてほしかった				
4 「小児療育センターに行け」と言われてそれきり。継続的なサポート体制がなかった				
5 相談場所・親の会の存在などの情報提供もなかった				
6 保健センターの人が最初に来てだけで、後はぜんぜん来ない。継続的に関わってほしかった				
7 早期発見・療育が大切なのに、就学前の親に対する情報が特に少なかった				
8 親の不安は大きい。				
9 就学の壁(選択)のとき、特に先輩の情報がほしい				
10 同じ障害児の親と交流を深めるための情報がない				
11 自閉症やダウン症など会のある障害に属さない場合、どうすればいいのか				
12 聴覚障害児などは少ない。先輩の親の話などを聞く機会がなかった。				
13 まれな障害の場合、とても孤独で不安。全国までいかないと情報が入らない				
14 家族全員で障害に向かい合い、理解していないと、しわ寄せが本人と母親だけにくる				
15 週に1回でも多く訓練を受けたい				
16 障害児デイサービス事業を赤字という理由だけで縮小してほしくない(今、武生は充実している)				
17 子どもがお昼寝するので、午後の訓練は休まざるを得ないことがある				
18 上の子が小学校に上がると2時頃帰ってくるので、午後はいけない				
19 保育園で、保育士に障害児に関する知識がなかった	児童ディサービス	訓練時間を午前中も設ける		
20 学童保育(保育園)ではスタッフ・職員数も少なく、知識も少なく「ほったらかし」の感じ				
21 保育園で孤立している				
22 先生が一人、専任で子どもにつく園と、つかない園があるのは、おかしい				
23 保育園に長期休暇中の学童保育をお願いしているが、ちっとも融通がきかない				
24 滋賀県では保護者を交えてのケア会議が頻繁にあった				
25 滋賀県では小児療育センターへ保育士と一緒に来てくれた				
26 保育所内部でも一歩退かれているような気がする(自閉の子)				
27 お母さんの輪にも入っていけない(自閉の子)				
28 重度の子は保育園にも入れない(つくし園に行っていた)				
29 幼稚園は障害児を受け入れてくれない。保育園は受け入れるのに・・・				
30 幼稚園出身の子と、保育園出身の子とでは、障害児に対する接し方、受け入れ方が違う				
31 補助員制度の創設など、福井県全体の行政の対応が遅い				
32 補助員がいらないばかりに、特殊学級へ入らざるをえないケースがあった				
33 介助員の確保を家族に求められた(介助員探しがたいへんだった)				
34 介助員が身内だと甘えが出て自立心が育たない。また異性介助になっていてトイレなどが問題となる				
35 介助員の報酬が低く、他人にボランティアを頼めない			保育園	ともに育ちあうための援助
36 福祉(障害児政策)に対する教員の知識が不足している				
37 普通学級の子どもの数が多いので担任の先生が個別対応しきれず、「特殊へどうぞ」となりがち				
38 六中には特殊学級がない				
39 特殊学級の中で、養護学校のように1対1で学べればよかった				
40 なぜ特殊学級だけが校長室の隣にあるような配置になっている学校があるのか				
41 特殊学級に対し偏見がある				